



「ママに会いたくなっちゃった…」

先日、朝からなんとなく気持ちが（行動も）落ち着かない子がいました。
「どうしたの？」と声をかけてみると
「朝、ママとちょっとケンカしちゃった。」
「ああ、そうなんだあ。」
「うん、ママに会いたくなっちゃった…」



「ママは、まだ怒っているかな？」「ボクのことを嫌いになっていないかな？」そんな気持ちが行動にも表れたのでしょうか？この子は低学年でしたが、こんな気持ちになるのは何年生になっても変わらないはずです。大人だって同じかな？

特に小学生段階の子の心の安定は、安心して甘えられる、認めてもらえる、可愛がってもらっていると感じるなどの親子のつながりの安定から得られるのだそうです。

乳幼児と養育者との間に築かれる基本的な信頼感のことを「愛着」といいます。

子供との愛着形成は、その後の子供の人間性や社会性へも大きな影響を与えることがあります。幼児期に、両親からたっぷり愛情を受けることが、子供の心の成長につながると言われています。次のようなことを日常的に意識するとよいとのことです。

- 1 かまって欲しいという行動や要求に応じてやる。
特に幼い頃は、「抱っこして欲しい」「かまって欲しい」という時に、自分の世話をしてくれる人が「安心できる人」と感じて「心の安全基地」となります。世話をしてくれる人への信頼感や存在感が大きくなり、安心して過ごすことができるようになります。
- 2 抱っこやスキンシップをする。
ぐずっている時やご機嫌が斜めの時などに、ぎゅっと抱っこしてあげるだけでも子供の気持ちが落ち着きます。皆さん経験がおありでしょう。落ち着くことで自分の心をコントロールできるようになります。子供が泣いているときにタブレットを渡すと泣き止むのは別の刺激を受けて注意がタブレットに向かっただけ。心の安定には繋がりません。
- 3 アイコンタクトをする。（「目は口ほどにものを言う」）
アイコンタクトには「共同注意」という大人の行動の意図を理解させる働きがあるとのことです。お互いの視線を合わせるだけでも、言葉にはないコミュニケーションを取ることができるようになります。

「小学生になったから、高学年になったからもういい。」のではなく、少しずつでも自分たち親子のペースで、たっぷりと関わっていることが大切でしょう。

子供が小学生の時期はあっという間に過ぎていきます。親業は、しんどいことが多いですが、たっぷりと関われるのはこの時期です。そのうち、親が子供にかまって欲しいと思っても…。となるものです。自分のことを振り返って、こう考えています。

13日（木）学校公開 授業参観へどうぞ！

朝の会から給食の準備まで、どうぞご覧ください。

この日は、「あいさつ・声かけ運動」として、地域の多くの方が登校時刻に子供たちに声をかけてくれます。一緒にいかがですか？

保護者の皆さんがいらっしゃると、子供たちはいつも以上に張り切って過ごします。

小学生の我が子の様子、見ておかないなんてもったいない！



【1年生のアサガオ、2年生の夏野菜、3年生のヒマワリ… 賑やかになってきました。】